

次期一般廃棄物最終処分場整備に係る基本構想・基本設計の概要



施設イメージ図（案）

平成 28 年度

糸 魚 川 市

本概要版は、平成23年度から平成26年度にかけて実施した「ごみ処理施設あり方検討委員会」及び「ごみ処理基本構想検討委員会」の報告に基づき、一般廃棄物最終処分場として適正な機能を有する施設整備を実施するための「一般廃棄物最終処分場整備に係る基本構想・基本設計」の基本的事項等について取りまとめたものです。

1 最終処分場施設規模等

建設場所 糸魚川市大字大野地内（大野最終処分場の下流側）

新しい最終処分場は、山林・農地の開発や道路の整備等が不要であるなどアクセス及び土地利用条件ともに適した場所であることから、現在の最終処分場の下流側に設置することとします。

埋立容量 6,000m³

平成33年度から平成47年度までの15か年の埋立対象物（焼却飛灰等）を埋立てることができるように、埋立容量「6,000m³」とします。

最終処分場形式 クローズド型（被覆型）最終処分場

最終処分場の形式は、立地条件（平地）や冬季の気象、年間降水量、春季の融雪等の条件、周辺の環境保全対策等を検討した結果、「クローズド型(被覆型)」の最終処分場とします。

埋立地構造 二重遮水シート構造

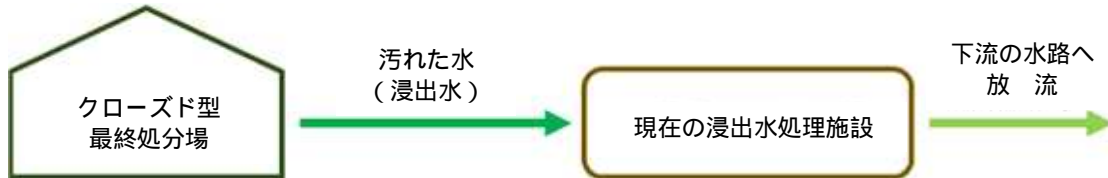
廃棄物を安全に埋め立てるための貯留構造物は、コンクリートピット形式とし、水密性の確保やクラック対策などのため、防水性に富んだコンクリートを採用します。

また、さらに遮水性を高めるため、コンクリートピットを二重の遮水シートで覆う「二重遮水シート構造」とします。

浸出水処理方式

クローズド型の最終処分場から出る汚れた水（浸出水）の量は、廃棄物の安定化や場内作業環境の保全のために必要な水を散水するだけとなるため、一日当たり2 m³となります。

現在の浸出水処理施設の処理能力は、一日当たり260³ですので、現在の最終処分場からの湧水(施設廃止を以て“浸出水”ではなくなる)と一緒に処理を行い、現在と同様に下流の水路へ放流します。



運営方式 公営方式

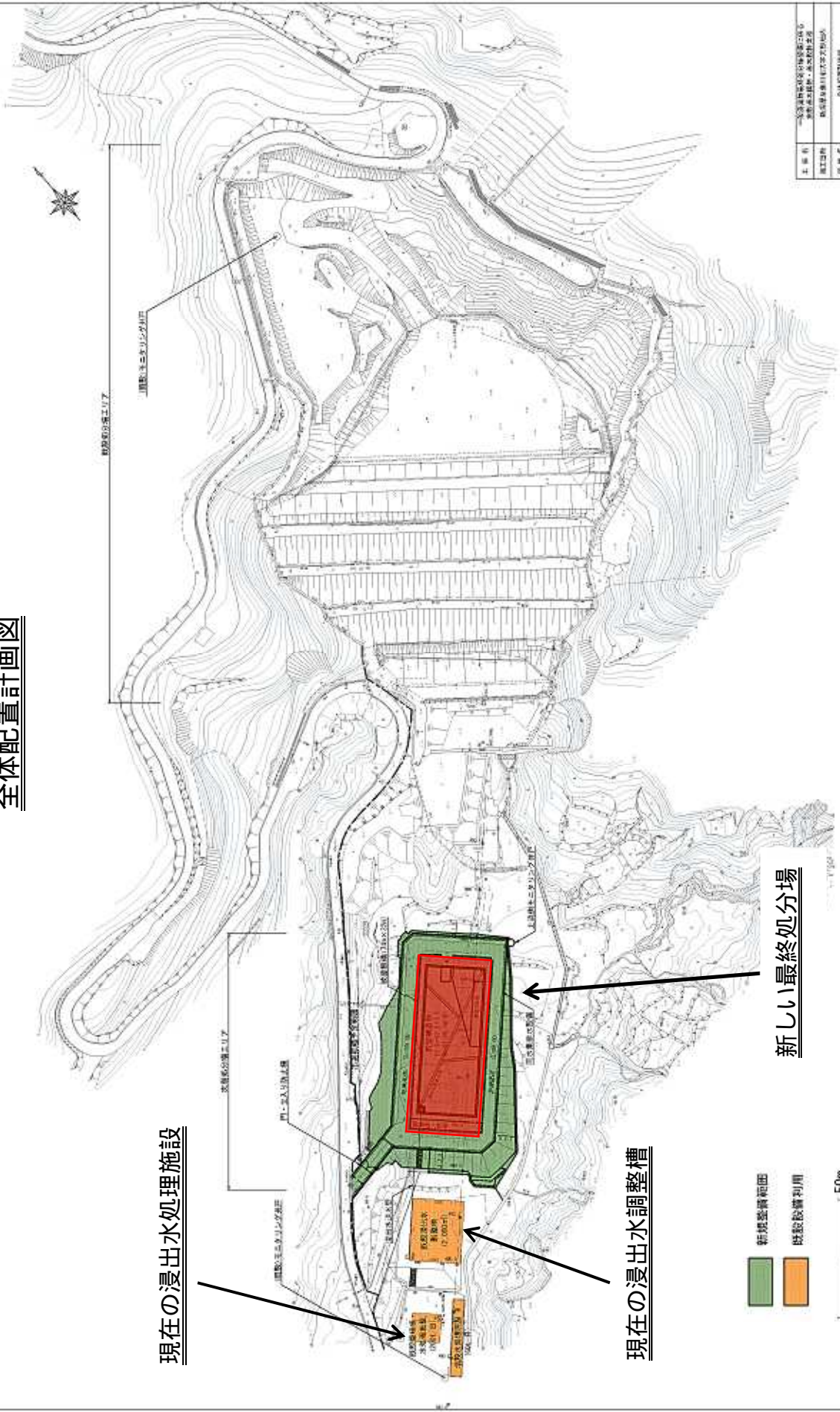
最終処分場から出る汚れた水(浸出水)の水質が、社会情勢の変化等により当初計画から異なる恐れなどがあることから、現在の最終処分場と同様に、市が供用開始から廃止に至るまで責任を持つ、「公営方式」で行うこととします。

2 事業計画年次

表 - 1 新規最終処分場整備計画工程表

項 目		H28	H29	H30	H31 ~ H32	H33 ~ H47	備 考
大野最終処分場 (既設最終処分場)		← 廃止モニタリング →		● 廃止確認 申請書提			
新規最終処分場 建設	施設基本構想・基本設計	← →					
	発注支援 (発注仕様書作成、事業者選定)		← →				
	建設工事 (実施設計、施工)			← 実施設計 →	← 施 工 →		H33供用開始
	設計・施工監理			← 設計・施工監理 →			
新規最終処分場供用・埋立						← 供用・埋立 →	埋立期間 H33 ~ H47

全体配置計画図



現在の浸出水処理施設

現在の浸出水調整槽

新しい最終処分場

新規整備範囲
 埋設貯蔵利用
 50m

事業名	「新設の浸出水調整槽」の建設 事業
所在地	新潟県新潟市東区大森町
実施者	名村建設計画
代 理	建設事務所
調査年度	平成27年度
調査月	

新潟県新潟市